

ワークショップ進行シート

作成日： 2014 年 7 月 28 日

タイトル： 学校に行きたい！～貧困と世界の子どもたち～

ファシリテーター（グループ）： 学校に行きたいチーム

1：本ワークショップの要旨

現在、日本では当たり前のように、学校に行っています(教育を受けることができる)が、世界にはいまだ学校に行けない(教育を受けることができない)子どもたちがいます。世界の学校に行けない(教育を受けることができない)子どもたちを取り上げることによって、この問題は児童労働や衛生環境の悪さなど様々なことが原因となっていることを知ってもらおう。

2：本ワークショップの目的(目標、実現したいこと)

学校に行けないことによって生じる問題を理解し、派生する問題を通して、その後どのような影響があるのかを気づかせる。さらに学校へ行くことができない子どもたちの現状を疑似体験し、学校へ行けないとどうなるのかについて考え、途上国の教育環境の改善を図ることの重要性を理解してもらおう。

3：本トピックをとりあげる理由

子どもたちならだれでも「学校に行きたくない」「なぜ勉強しなければいけないの」と考えることがある。このワークショップを通し、学校に行くこと(教育を受けること)の大切さに気付いてもらいたい。さらに、世界の現状を知ることで、学校に行けない子供たちを生み出す現状と貧困状態の関連性を知り、この状態を断ち切るために自分にできることを考えてもらおう。

4：活動過程 (使用時間： 90分 参加人数： 約30～40人)

過程 (所要時間)	活動内容	具体的な発問・説明・動き など	ねらい	使用する教材 ・備品	予想される反 応. その他, 注 意事項
自己紹介 (5分)					
アイスブレイ キング (10分)	<u>「数集まりゲーム」</u>	学校の中で好きな教室や教 科が同じ人同士で集まっ てもらう。	参加者全員で 楽しく活動し て、緊張をほ ぐす。 後の活動のグ ループ分けも 兼ねている。		あふれてしまう 生徒が出ないよ うに配慮する。
導 入 : 起 (10分)	<u>「薬当てゲーム」</u>	例) 子どもたちが知らない 言語で書かれた、“薬”、“水 ”、“毒”のペットボトルの中 から薬と書かれたものを探し てもらう。	文字が読めな い体験をして もらう。		「これはきっと薬 だよ。」 「いや、間違い だよ。」
展 開 : 承 (30分)	<u>「国探しゲーム」</u>	アイスブレイキングのグル ープに分かれてもらう。 身の回りにあるものがどこの 国で作られたものであるか を探し、見つけられた数で 競う	身の回りに外 国でできた物 がたくさんある ということを知 ってもらう。	画用紙 マジックペン ハサミ 見本の型 お金 ゴミ袋	「たくさんあるん だなあ。」
休憩 (10分)					

<p>発展 :転 (10分)</p>	<p>「学校に行けない 8 つの理由」</p> <p>【模擬体験】 「水・薬・毒」</p> <p>参加者からお母さん役 1 名選出。ファシリテーターが病気の子ども役。</p>	<p>学校が近くにない/先生がいない/学校に通うためのお金がない/家計を助けなければならない/弟や妹の世話をしなければならない/親が学校に行かせてくれない/重病にかかった/戦争に巻き込まれた。</p> <p>「では、今度は字が読めないとどんなことが起こるか、体験してもらいます。」</p> <p>「子どもが熱を出してしまいました。お母さんは薬を買いにお店に来ました。3種類の瓶があり、一つは「水」一つは「薬」、そしてもう一つは「毒」です。」お母さん役に 1 本だけ選んでもらい、子ども役のファシリテーターが実際に飲み、演技する。</p>	<p>発表の内容をホワイトボードに記入し、「文字の読み書きができないって、どういうことかな？」</p> <p>学校に行けない(教育が受けられない)ことで起こる「負の連鎖」を理解してもらおう。</p>	<p>ペットボトル 水 薬 毒</p>	<p>「なんで学校に行けないのか。」</p> <p>「なんで子どもが働かなければいけないのか。」</p>
<p>まとめ :結 (15分)</p>	<p>負の連鎖についての説明</p> <p>「私たちにできることは？」</p> <p>グループワーク (5分)</p> <p>発表 (5分)</p> <p>まとめ (5分)</p>	<p>学校に行けない(教育が受けられない)ことで起こる「負の連鎖」を考えよう。</p> <p>アイスブレイキング、展開のグループに分かれてもらう。</p> <p>グループごとに自分たちにできることをポストイットに書いて画用紙に貼ってもらう。</p>	<p>世界の現状に気付いてもらう。</p> <p>自分たちができることは何だろうか？</p>	<p>メインファシリテーターは「学校に行けない」カードで負の連鎖を説明。</p> <p>画用紙 マジックペン ポストイット</p>	<p>考えが出てこない場合は、ファシリテーターが支援する。</p> <p>(時間があれば) 自分たちにできることを考える。</p> <p>(時間がなければ) 自宅に帰ってから自分たちにできることを考える。</p>

5:会場のセッティング

- ・ワークショップを通して、生徒は机、椅子を使用しない。ただし、道具を置くために、2, 3個の机が必要。
- ・可能であれば、パワーポイント(スクリーン)を使用したい。

6:使用する教材

- ・写真
- ・ポストイット

7:参考にした資料

- ・JICA 地球広場「国際理解教育実践資料集～世界を知ろう！考えよう！～」
- ・大月書店「くらべてわかる世界地図2 学校の世界地図」
- ・ユニセフホームページ

8:その他